

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200098
法人名	社会福祉法人 葉港会
事業所名	小規模多機能型居宅介護拠点 天神ベイヒルズ
所在地	〒857-1175 長崎県佐世保市天神町1205-5
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 5 日
評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JizyosvoCd=4290200098-00&PrefCd=42&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 3 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「太陽と音楽と香りと語り」を法人理念とし、いつも明るく、楽しく笑顔の絶えない暮らしをしています。お客様が地域の中で、健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支える為に支援しています。いつまでも若く美しく健康に暮らせるように、敬老の日にはステイヤングパーティを開催しています。小規模多機能のみのお客様だけではなく、併設のケアハウスや特定施設の入居者の方とも、自由に交流ができるようにしています。一人ひとりの時間に合わせてゆっくりとした生活をしてもらいたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は佐世保港を眼下に望み、敷地内には桜・桃・木蓮等の四季を感じられる植物が植えられている。新人職員には、入社3日間は電話の対応・接客・あいさつの徹底等の接遇マナーの研修をされている。また、勤務に関しては職員の個人的な都合・家族・産休等を考慮し「思いやりのあるシフト」を取り入れ、勤めやすい環境作りをされている。地域の小・中学校の入学式と卒業式には部長が出席されたり、毎週月曜・水曜・金曜日に曜日を決め隣接のスーパーやコンビニエンスストア・障害者施設で作られたパンの訪問販売があるなど、地域に密着した施設である。食事面では栄養管理士が栄養管理をしており、朝食には必ず牛乳が用意されている。厨房職員には月一回検便を実施するなど、衛生管理も徹底している。職員同士のコミュニケーションも良くとれており、利用者に対しても利用者に出る事はやってもらう等の介護の統一がされており、これからも期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に、お客様が地域で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支える為の理念であり、朝礼時に、全員で唱和している。	法人の基本理念を毎朝、朝礼時に唱和されている。明るく静かな雰囲気の中で楽しい日々を過ごせるように全職員で支援されている。また、新人職員には3日間の事務作業を通じ、電話対応・来訪者の接待や、相手の目を見た後、挨拶をする等の接遇の教育をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方と情報交換を行い、町内会にも加入し、地域の情報を得ている。また、小学校・中学校の入・卒業式にも参加している。ますます元氣教室も行い、地域の方とのつながりを大切にしている。	当事業所で開く夏祭りにはボランティアの受け入れや地域の方の多くの参加があったり、「ステイヤングパーティー」(敬老会とは言わない)には商工会や地域の婦人部や婦人団体の参加もある。また、春には婦人団体がケアハウスや小規模多機能ホームの見学にも来られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門士等の資格を積極的に取得し、認知症の方への理解を深め、地域の人々へ理解していただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。現状報告をしながら、参加者の意見を伺い、サービス向上に向けて前向きに取り組んでいます。	運営推進会議には固定のメンバーの他に介護職員が交代で出席したり、看護師の出席もある。季節毎の議題やアクシデント・インシデント報告もされている。また、マイナンバーの質問に担当職員が説明をしたり、警察の方に会議に参加頂き、詐欺に注意するようにアドバイスを受けたこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとの連携により、新規の問い合わせがあったり、市主催の合同ケア会議への参加で情報交換を行っている。	行政から当事業所の空き情報の問い合わせや、包括主催の「地域ケア会議」に参加したり、自治会・民生委員・老人会・医療・歯科・薬局等が参加される「独居の認知症高齢者支援」の会議に参加し話し合いを持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束の研修を終了しており、マニュアルを作り、職員へ徹底しています。常に、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束のマニュアルは用意されており「身体拘束ゼロ宣言」を事業所内に掲示し、担当者も設けている。また、「身体拘束排除宣言」もされている。「チョット待って」等のスピーチロックに対しては気づいたその場ですぐ注意をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お客様の身体的だけでなく、精神的虐待にも注意し、研修にも積極的に参加しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修に行き、職員全体で情報を共有するように、社内研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様、ご家族の方が理解、納得されるまで説明を行い、同意を得たうえで署名と捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有は、通常と異なる事態のときに、特に行っています。手帳により、日々の簡単な情報共有は行っています。施設の運営についての意見は特にはないが、個々の意見はあり、検討材料にしている。	希望・要望は本人や家族が来られた際に直接聞き取られている。また、連絡帳が用意されており日々の利用者の様子や、利用料の支払いにも活用されている。家族より泊まりの回数を増やして欲しい等の要望を頂く事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった場合には、定例会や職員ミーティング時に随時報告を受け、可能な限り反映させています。	法人全体の会議があり、出席できない職員には「定例会議録」で周知が図られている。また、日々のミーティングや個別に話をする機会もある。職員意見を反映し、職員用の電話機で着信相手が分かる外部ディスプレイが付いた電話機にしたり、電話本体のコードを長くしたり、呼び出し音を小さくするように変更をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境と仕事のバランスに配慮しながら、勤務時間や業務内容などを個別に相談しながら対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、可能な限り外部への研修への参加を推奨しています。新人研修は、全職員は職員互助会協議しながら適宜実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議などに参加し、他事業所の専門職との意見交換によるネットワーク作りや交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談では、お茶を飲みながら、くつろいだ雰囲気の中で行われています。困っていることを聞き出す為には数回の面接を繰り返し行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や電話での話し合いを重ねたり、施設見学の折にご家族の不安や思いを受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心から信頼して頂くように努め、他のサービス利用も視野にいれながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食規模専用のスペースに閉じこもらず、レストランやソファで他のお客様や、職員を交えて団欒の場を提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし、出来るだけご家族とともにお客様のパートナーとして良好な関係を作るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所への馴染みの店へ買い物に、職員と行く等、ご本人様の希望に合わせて勤めています。	買い物はすぐ隣のスーパーへ行かれており、スーパーの職員にも顔見知りがあり、利用者の見守りにも繋がっている。利用者が帰宅の際には歯科へ連れて行かれたり、少し遠回りをされ好きな場所へドライブをして帰られる事もある。時には友人の訪問がある利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小規模のお客様同士の関係は良好で、ゆったりと過ごされています。お茶を飲んだりして、お客様同士会話する空間を提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1度関わったお客様なので、お付き合いを大切にし、引き続き相談や遊びに来てもらえるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を大切にし、要望に沿った支援をするようにしています。日々の変化に注意し、ご家族からも情報を得ることにより、お客様の意向を聞き相談に応じています。	利用者の日々の気づきについて付箋やメモを利用してその場ですぐ記録し、後で「ケース記録」へ付箋を貼ったり、記録をする等、良い取り組みを実践されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に、ご家族から得た情報をご本人様の希望に沿って、その人らしく生活できるようにしています。お客様やご家族などから少しずつ情報を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がお客様の1人ひとりの1日の様子を申し送り等の中で把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	機会があるごとに、ご本人様やご家族からの意見を聞いて担当者会議を開き、全員でそれぞれのアイデアを出し合い、介護計画に反映しています。	ケアプラン会議や職員会議時に「ケース記録」や「申し送りノート」を基に全職員で話し合い、ケアマネージャーがケアプランを作成されている。家族の方が利用者宅に手すりを設置されたり、階段に昇降機を設置されたりしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に実施記録とケース記録には、状態の変化について情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族の要望に合わせ、通いや訪問、泊まりの利用に柔軟対応しています。また必要に応じては、移動美容室もご利用できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんなどと定期的に情報交換を行い、消防士の方を呼んで消防訓練を行い、緊急時に備えています。安心して過ごせるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医のほか、お客様やご家族の希望されるかかりつけ医があればご家族と協力し、通院介助も行っています。	協力医の往診が毎日あり、全体の利用者を日毎に分けて診察されている。急な診察には看護師が早目に協力医へ連絡を取り診察できる対応を取っている。受診結果は送迎時に家族に直接報告したり、連絡帳に記載されている。かかりつけ医は家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化や健康管理に応じた支援が行えるように配慮しています。近隣の協力医や看護師との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員がお見舞いに行くとともに、状態把握を行い医療関係との連携が図れるように配慮しています。また、ご家族とも話し合いながら情報提供していただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様やご家族の意向を大事にしながら、職員同士で終末期について考え、協力医とも相談できる体制を整えています。	調査日の数日前にも看取りを経験されている。看取りの指針があり、担当者会議を開き、看護師・医師・家族と話し合いこれからも看取りに取り組みされる方針である。看取りについて、職員への心のケアについては言葉では説明は難しいが、看護師が体験談を伝えるようにされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、急変時に備えて研修を行い、円滑な対応が出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の定期的な消防避難訓練により、災害時の対応が円滑に出来るように努めています。	消防避難訓練に防災点検業者の参加があり、消火器の操作の訓練を行い、その後の消火剤の入れ替えも業者が行っている。隣接するスーパーを建設する際、スーパーの店長と建設中より交流を計り、利用者の見守りの協力も得られている。AED(リース契約)の設置もある。	AEDの設置はあるが、全職員が操作できる研修と、備蓄については委託業者に依頼されているが、地域の避難場所に指定されている事もあり再度備蓄品の確認をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分に配慮し、日常生活においても自尊心やプライバシーを守るように職員の意識向上を図っています。	入室の際には声掛けとノックをされている。オムツの交換の時にはパーテーションを使用したり、入浴時には自尊心を傷つけないようにカーテンを用いられる。入浴時には順番を変えるなど羞恥心をなくす工夫もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押し付けるようなことはせず、日々の生活の中で希望を聞き、いくつかの選択肢の中から自分で決められる場面を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、時間を区切った過ごし方をされないよう努めています。体調に配慮しながらご本人様の気持ちを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の移動美容室があり、お客様のご希望やご家族の希望により、カット、パーマ、白髪染めなどのサービスをご利用いただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人別の食種は、十分に把握しております。献立と調理は、厨房で行っていますが、季節に合わせた行事食や、メニューも豊富なのでとても楽しみにされています。	利用前には嗜好調査をされ、キザミ・ミキサー・一口大・トロミやお粥を用意される。給食会議で催し物や季節毎のメニューの話し合いもされている。朝食には毎朝牛乳の提供があり、牛乳が苦手な方にはヤクルトの用意もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎服用薬時にチェック、食事量内容、形態については、ご本人様やご家族、主治医の意見を参考にしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のチェックを行い、利用の状態に合わせて、歯磨き、義歯の手入れなどの支援を行っています。随時訪問歯科医との連携も図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の1人ひとりの排泄パターンの把握をしてトイレ誘導を行うようにしています。	排泄チェック表はあるが、現在、記録に該当する利用者はいない。食事前や入浴前に排泄の声掛けをされている。リハビリパンツを職員が手伝う際には声掛けをし、利用者に片方は上げてもらう等の出来る事は行なってもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便状況の確認を行っています。また、自然排便を促すように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	血圧測定、体温を測り、健康状態をみながら、お客様の意向に沿って入浴を支援するように努めています。	冬場は脱衣所には暖房器があり、場合によりガスストーブも用意される。柚子湯・菖蒲湯や市販の入浴剤の用意もあり、利用者が菖蒲等を持って来られることもある。入浴後は施設や利用者が持ってくる保湿剤の用意がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、お客様の体調や生活リズムを整えるように努めています。また、個別に対応して休息できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルして、職員が把握できるようにしています。服薬確認も徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設のレクリエーション活動に、ご本人様の意思があれば、参加していただきます。また、近くにエレナがあるので、買い物も楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近、近くにエレナができたため、買い物したいと言われ、職員と一緒に買い物したり、奥様のおられる施設にでかけたり、ご本人様の希望に沿って支援している。	隣接するスーパーやコンビニエンスストアへ職員と一緒に買い物をしたり、帰りの送迎時にも買い物をする方もいる。事業所内にもジュースの自動販売機の設置があり自由に買い物をされている。尚、事業所側での金銭管理はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様にもよりますが、ご家族または自己管理にて金銭管理をされています。お買い物については、一緒に行って買い物を楽しむなど、買い物希望に沿うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は常に可能であり、希望があれば支援しています。手紙のやり取りは、希望があれば支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、季節に合わせた温度、湿度管理をしています。BGMを流したりして、ゆったり、のんびり過ごしていただくよう配慮しています。	事業所内には利用者のぬり絵や俳句が掲示されていたり、職員に「よさこいチーム」のメンバーがいてチームの写真と共に寄せ書きも飾ってある。また、有線放送のBGMが流れており理事長の提案により昔の曲だけでなくAKB48等の現代風の音楽も流されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにイスやテーブルを置き、絵画や観葉植物を配置し、居心地よい環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持ってきていただくようにして、安心して過ごしていただけるように配慮しています。	ベッド・布団・ポータブルトイレは事業所側で用意され、利用者は自分用の布団や加湿器・着替え等を持って来られている。居室でのポータブルトイレの使用後は利用者が部屋を出られた間に窓を開けたり消臭剤で対応されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはプレートを下げ、居室の前にはお客様馴染みのものを活かしています。状態の変化があれば、その都度、職員同士で話し合い自立していただく。		